

開講科目名／Course	ヘルスアセスメント	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 1 学期／First	
開講区分／semester offered	1 学期／First	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	2	
主担当教員／Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名／Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苫 美和、安部 涼子	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	解剖生理、病態生理、主な疾患の基本的知識に基づき、看護に必要な対象者の身体的な情報について、五感を駆使して収集する方法を系統別に学び、アセスメント能力を身に付ける。	
到達目標	1. 身体観察技術論で学んだ基礎的知識・技術を活かし、障害をもつ対象に対するヘルスアセスメントの意義を説明できる。 2. 呼吸器系、循環器系、消化器系、神経系、運動器系などに障害をもつ対象に対し、ヘルスアセスメントのための観察視点や根拠について説明できる。 3. 観察した情報から健康問題を予測し説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探求心と創造力	
授業計画	01. ヘルスアセスメントの意義、健康歴聴取 02. 呼吸器系のヘルスアセスメント 03. 呼吸器系のヘルスアセスメント 学内演習 04. 循環器系のヘルスアセスメント 05. 循環器系のヘルスアセスメント 学内演習 06. 消化器系のヘルスアセスメント 07. 消化器系のヘルスアセスメント 学内演習 08. 神経系のヘルスアセスメント 09. 神経系のヘルスアセスメント 学内演習 10. 運動器・感覚器のヘルスアセスメント 11. 運動器・感覚器のヘルスアセスメント 学内演習 12. フィジカル事例演習：デジタル聴診器による聴診音 13. フィジカル事例演習：事例Aによるフィジカルアセスメント 14. フィジカル事例演習：事例Aのフィジカルアセスメントと病態関連図 15. フィジカル事例演習：事例Aの症状と予測される健康や生活への影響	
その他の授業の工夫	講義と演習を繰り返しながら、理論と実践を結び付け理解を深められるように進めていく。また、系統別に学んだ内容について、フィジカル事例演習を行うことで、フィジカルアセスメントの知識を統合し、アセスメント能力を身に付けられるようにアクティブラーニングで進めていく。	
時間外学修	講義事前学修：テキストの該当箇所を事前に読み解剖生理を復習し分からない用語などを調べておく（1h）。 演習事前学修：ナーシングスキル(e-learning)で事前学修する（2h）。 講義事後学修：資料やノートの内容を復習する（1h）。 演習事後学修：演習で行った記録を課題レポートとしてまとめる（4h）。 筆記試験を行うので、重要なポイントを適宜整理する（4h）。	
評価方法と評価割合	原則全出席と毎回の演習レポートの提出が筆記試験の受験資格となる。 演習態度によっては参加を認めない場合もあり、欠席扱いとなる。 評価の重み付けは筆記試験（100％）で行う。	
テキスト	毎時間、演習資料を配布する。	
参考書	系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2]（医学書院） フィジカルアセスメント完全攻略Book（慧文社）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	石田佳代子：病院の看護師経験 三苫美和：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験 安部涼子：病院の看護師経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	

実務経験をいかした教育内容	看護師経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けながら教授する。
---------------	--